

技藝科學術談話會々報 第三號

目次

- 一、胎教
- 一、シヤムの話
- 一、石鹼ノ良否ニツキテ
- 一、圖書教授上ノ新話
- 一、家庭の娛樂
- 一、雜談
- 一、イロイロノ目
- 一、講話
- 一、味噌ニツキテ
- 一、所感

- 教授 文學士 下田 次郎
- 講師 安井 哲子
- 客員 教諭 近藤 耕藏
- 客員 訓導 藤 五代策
- 技二 坪内 すゑ
- 教諭 小此木 松子
- 講師 文學士 倉橋 惣三
- 女子大學教師 井上 秀子
- 技一 臼井 よしの
- 技四 澤 きよ

一、北海道教育視察所感

部長 教授 小林 照朗

一、記事

一、會計通信

一、會員ノ異動

一、會計報告ノ目

一、業務

一、業務ノ整理

一、圖書整理ノ法

一、印刷ノ注意

一、印刷ノ注意

一、印刷

目次

技藝科學術談話會々報 第三號

胎 教

教授 文學士 下 田 次 郎

今から二千餘年の昔、西洋にスバルタと云ふ所がありました。此のスバルタと云ふ所では立派なる兒を擧げやうと云ふ目的から、結婚を致します時には大層喧ましいのであります。

それで結婚には先づ男女とも立派なる身體を有する者を選んだのであります、恠る身體を有して居らない者は、結婚が出来ないと云ふ有様であります。かくて結婚して、婦人の胎内より生れさせた赤兒は調べる役人が居りまして、其の役人の前へ、赤兒を持出して調べて貰ひます、而して役人が此の赤兒なれば、他日立派な國民になるだらうと云ふ鑑定を與へたものは、直ちに取上げますが、どうもこんな赤兒は生きて居つても見込がないと云ふ鑑定をつけられたものは慘酷にも谷に捨てたり杯致しまして、最初から取上げませなんだ。

今日は人道と云ふものがございますから、總て人間と云ふ以上は誰れでも生存の權利を有つて居るのであります。生れたばかりの赤兒でも、權利を有つて居りますから、昔のやうな譯には參りませぬ、それ故に今日は身體の悪い兒でも善い兒でも悉く養育して居ります。我が日本國にも身體の悪い兒は生れないで善い兒ばかり生れるやうになりましたならば、實に幸福であると思ひます。